

# 整形外科専門医研修ネットワークプログラム(中部版)

## 1 はじめに

プログラムリーダー 市立島田市民病院 整形外科 主任部長 片山 武史

地方の総合病院は地域住民にとって、まさに terminal hospital です。疾患を問わず、昼夜を問わず訪れてくる患者さんたちに適切な医療を提供することが、我々地域医療を担うものの使命です。進みゆく高齢化社会の中で、外傷や関節リウマチ、骨粗鬆症、腰部脊柱管狭窄症、変形性関節症などの慢性疾患は増加傾向にあります。以前は対象にならなかったような高齢者に対しても手術的治療が行われるようになっており、整形外科医は今後さらに社会から求められることが予想されます。

静岡県では充実した研修を受けられるように、県として研修システムを構築しました。本システムによる研修を受けることで地域医療に貢献することの素晴らしさをぜひ学んでいただきたいと思います。



## 2 目的

日本整形外科学会専門医受験資格を獲得することが当面の目的となります。しかし、そのみならず将来の静岡県整形外科医療を担う人材を育成することにあります。

## 3 特徴

複数の病院で研修を行うことは、多くのメリットがあります。病院や医局が異なれば、同じ疾患・同じ外傷に対する治療方法が大きく異なることは珍しくありません。診察法、保存的治療、手術手技や後療法なども学会や研究会の発表ではわからないような点で違いがあります。さまざまな方法を実際に体験することで、その後自分なりの方法を確立することができます。

多くの先輩整形外科医と働くことによって、幅広い人脈が生まれ、今後整形外科医として働いていくうえで多くの利益をもたらしてくれる可能性があります。研修を修了して就職する際にはもちろん、臨床研修や基礎研究への道にも新たな選択肢が増えると思います。また、研修を終えた先生自身が複数病院の懸け橋となって連携を生むことも予想されます。

## 4 研修プログラム

日本整形外科学会の専門医研修カリキュラムに準拠します。

研修評価は日本整形外科学会専門医研修カリキュラム達成度評価表によります。

## 5 研修例

基本的に一つの病院は1年間の研修となります。ただし、例に示したように希望や必要に応じて研修期間の調整は可能です。

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	A病院											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	B病院											

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	C病院											

4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	D病院						E病院					

## 6 研修病院群

### 市立島田市民病院の特徴

専門医 寺本健二 (1974年信州大学医学部卒)  
片山武史 (1986年京都大学医学部卒)  
加藤弘文 (1989年愛媛大学医学部卒)  
佐伯公三 (1993年自治医科大学医学部卒)  
澤田守弘 (1996年自治医科大学医学部卒)  
齋藤富彦 (2002年京都大学医学部卒)

当科では、骨軟部組織原発の悪性腫瘍手術以外の整形外科的疾患はほぼ万遍なく経験できます。専門医の経験も豊富です。手術は原則主治医執刀制で、助手も含めると年間約300例の手術を経験できます。また co-medical staff の協力も良好で、緊急手術の対応などもスムーズです。開放骨折はもちろん、小児上腕骨顆上骨折も原則当日手術です。大腿骨近位部骨折も条件がそろえば当日手術も行っています。外来でもリウマチ、骨粗鬆症などの慢性疾患や外傷の保存的治療などが多数経験できます。

特定の疾患に偏ることなく経験できることが当院の特徴とっております。他科のスタッフとも気軽に談話室で互いに相談し合う雰囲気もあります。

### 静岡県立総合病院の特徴

専門医 松岡秀明 (1989年京都大学医学部卒)  
中山憲 (1993年大阪市大医学部卒)  
佐治隆彦 (2002年京都大学医学部卒)  
佐野禎一 (2002年滋賀医科大学卒)

静岡県立総合病院は、静岡中部地区を代表する総合病院であり、整形外科では年間1100を超える手術件数があり、年々増加しています。手術内訳は、脊椎外科、関節外科（関節鏡を用いた手術、人工関節）、手外科、などバランス良く各疾患が研修可能であり、慢性疾患だけでなく外傷も多く経験することができます。手術法では、現在の流れである低侵襲手術である関節鏡や顕微鏡を用いた手術が多いことに特徴があり、特に肩関節鏡手術では県内トップクラスです。整形外科スタッフは現在8名ですが、

年齢は比較的若く、みな活発に仕事をしています。また、麻酔科、内科、リハビリテーション科など関係各科も十分な人数のスタッフがおり、関係良好です。

### 静岡市立静岡病院の特徴

専門医 佐野倫生（1990年浜松医科大学卒）  
松原隆将（2002年浜松医科大学卒）

静岡市の中心部に位置する、地域中核病院です。日整会専門医2名以外に医師2名、後期研修医3名の計7名です。平成25年の年間手術件数は870件です。そのうち、半数以上が手外科、骨軟部腫瘍、人工関節、脊椎などの疾患に対する手術です。週2日、朝から2列の手術を行い、それ以外の3日は、外来、病棟業務に専念しています。午後には専門外来を開いており、一般外傷の治療のみならず、専門的な診療も研修できる体制が整っています。

### 静岡市立清水病院の特徴

専門医 奥山邦昌（1994年慶應義塾大学卒）  
丹治敦（1998年東海大学卒）  
菊池謙太郎（2000年昭和大学卒）

- 1) 当院整形外科は慶應義塾大学の関連病院であり、毎年医局から後期研修医を受け入れて研修しています。
- 2) 奥山（脊椎脊髄）、丹治（手の外科、肘、肩）、菊池（膝、股関節、足）の3人がそれぞれの専門分野を指導します。
- 3) 毎朝7:45よりカンファレンスを行い、個々の症例に対して治療方針を検討しています。朝早く大変と思う方もいるかもしれませんが、このカンファレンスは研修医の疑問点を解決する非常に重要な会議であり、研修医にとってなくてはならないものなのです。
- 4) 年間手術症例数は1000例を超え、急性期外傷を中心に慢性疾患、スポーツ外傷など整形外科全般にわたる疾患を経験できます。
- 5) 手術は実力の向上に応じて指導医のもとで年間100-200例の執刀ができます。
- 6) 整形外科医8人は、みんな仲が良く、働きやすい職場です。人間関係で悩むことはないでしょう。

### 静岡赤十字病院の特徴

専門医 小川潤（第1整形外科部長、脊椎センター長、脊椎脊髄病担当、1986年慶應義塾大学医学部卒）  
野々宮廣章（第2整形外科部長、外傷全般、手外科担当、1983年慶應義塾大学医学部卒）  
篠崎義雄（副部長、脊椎脊髄病担当、2000年旭川医科大学医学部卒）

医療界においても静岡は、東海道の中間地点、つまり東京からも中京・阪神地区からも人が流入するという地理的特徴を抜きにして語ることはできません。東西のいろいろな大学の出身者が集まって群雄割拠しているにもかかわらず、皆が仲良く、地域医療に貢献したいという共通の目標に向かってしのぎを削っています。医学教育はいまだに徒弟制度の面があり、大学の数、いや医者数だけ治療法があります。そのような環境下で我々は互いを拒絶するのではなく、それぞれの長所短所を認め合いながら自分なりの治療法を模索しています。治療成果を公表し合う静岡地区の地方会での発表は、全国区の学会よりむしろ緊張するくらいです。

さて、当院の最大の特徴は静岡中部地区の診療所のみならず、総合病院の先生方からも、またときには関東、中部からも紹介をいただく有数の施設であるということに尽きると思います。つまり専門家が治療に困

ったときに頼る、地域の最終ラインと指名していただいています。もちろん専門家の目は厳しいので、慢心すれば瞬く間に紹介数は減ることでしょう。そのような緊張感あふれる施設ですので、厳しさを敬遠される方に当院はおすすめできません。外科医にとって最も大切な執刀数はもちろんのこと、慢性疾患を数多く経験できるのも特徴です。研修終了後、自信を漲らせて当院を巣立っていく若い医師の姿を見ることが指導医の何よりの励みになっています。当院は慶應義塾大学整形外科教室の関連病院ですが現地採用の研修医もあり、本プログラムで入局した医師を現医局員と差別化することは全くありません。

当院のモットーは、出身医局の戸山芳昭教授の教えである、「心のある、優れた臨床医であり、同時に科学する目をもつ医師を育てる」ことです。臨床ができるようにすることは当たり前、日々進歩する医療に対してその真價を見抜く科学的な目を備え、生涯にわたって常に最先端であり患者さんに信頼される医師を育てます。開業のやり方を教えてほしい、レジャーでもやりながらほほど楽しい研修医生活を送りたい方はどうぞ他の施設を当たって下さい。

当院の指導医3名はみな自分の得意分野に対してプロフェッショナルとしての矜持をもっています。その奥義を余すところなくお伝えするつもりですので、それなりの覚悟をもって来てください。

## 藤枝市立総合病院の特徴

専門医 阿部雅志 (1997年浜松医科大学卒)  
鈴木重哉 (2000年信州大学医学部卒)  
伊藤高規 (2001年浜松医科大学卒)  
鈴木希央 (2004年浜松医科大学卒)

当院整形外科は浜松医科大学整形外科医局の関連病院および研修病院として7名のスタッフで診療しています。専門医は4名おり、それぞれが専門分野をもっています。志太榛原地域は救急の輪番性をとっていないため、常にこの地域で発生するあらゆる外傷の治療、手術をしております。その中で、スポーツ外傷、障害、膝関節、肩関節、股関節、手の外科、脊椎に対してそれぞれの専門分野をもつ専門医が中心に整形外科専門手術を行っています。

年間手術件数は900件を超え、スポーツではACL再建術、変形性関節症には人工関節置換術、骨切り術、肩関節では鏡視下腱板縫合術、鏡視下バンカート修復術を数多く行っています。藤枝市にあるJ3に昇格したサッカーチームである藤枝MYFCのチームドクターをしており、メディカルサポートをしています。

## 焼津市立総合病院の特長

専門医 友山眞 (昭和54年東京大学卒)  
朴英 (昭和62年卒)

上記専門医のほかに東大整形外科から派遣された5名の医師で診療を行っています。手術は原則として受け持ちが執刀医となるので、年間100件以上の術者経験ができます。

当院は外傷・スポーツ外傷の手術が多く、待機的手術は比較的少ない傾向にあります。専門的な手術は、関連病院から応援の先生に来ていただいて行うこともあります。

スポーツ外傷は朴先生が専門としており、膝・肩の鏡下手術を中心に各種手術を行っています。

研修医の先生には、救急外来・手術・病棟患者の管理を中心に診療にあつたていただくこととなり、受け持ち患者であれば手術術者となってもらいます。

大学からかなり離れているため、アカデミックな雰囲気はありませんが、スタッフが気軽にいろいろな意見を出し合える働きやすい環境で日々の診療にあつています。

## 7 研修病院群の実績

区 分	脊椎	人工関節	その他関節	外傷	手の外科	その他
市立島田市民病院	35	95	64	387	102	228
静岡県立総合病院	74	200	180	332	140	175
静岡市立静岡病院	40	98	168	280	207	77
静岡市立清水病院	137	121	41	265	340	169
静岡赤十字病院	395	147	48	404	65	165
焼津市立総合病院	11	44	127	482	14	42
藤枝市立総合病院	24	26	179	393	96	102

## 8 研修参加者の要件及び処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保健
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

## 9 研修終了後の進路

個別の相談に応じます。

## 10 プログラム運営委員(◎:プログラムリーダー)

### ◎ 市立島田市民病院 整形外科 主任部長 片山武史(1986年 京都大学医学部卒)

1986年京都大学整形外科に入局し、京都大学医学部附属病院、松江赤十字病院、神戸市立中央市民病院、市立島田市民病院、西神戸医療センターを経て、2003年から再び市立島田市民病院に赴任し、現在に至っております。

私は神戸出身ですが、静岡は気候が温暖で、人柄も温厚でのんびりしている人が多いと思います。富士山静岡空港は当院から車で20分の距離にあり、沖縄や北海道、韓国、中国へもアクセス良好です。

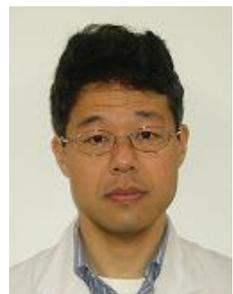
志太榛原地区は医師不足が深刻です。忙しいですが、多くの症例を経験することによって臨床医としての自信をつけることができると確信しております。是非静岡で整形外科医としての first step を踏み出してください。



### • 静岡県立総合病院 整形外科 主任医長 松岡秀明(1989年 京都大学医学部卒)

1989年京都大学整形外科に入局し、玉造厚生年金病院、神戸市立中央市民病院で研修を行いました。その後、京都大学大学院で人工材料の研究を行い、卒後、倉敷中央病院、京都大学助教授、アメリカ留学を経て、2003年当病院に赴任しました。当整形外科が、一部の分野のみではなく、あらゆる分野で全国トップクラスの臨床レベルを保てるように日夜努力しています。

後期研修は、研修医の皆さんが、整形外科医としての方向性を位置づける大切な時期です。整形外科の素晴らしい世界をのぞいてみてください。



・ **静岡市立静岡病院 整形外科 科長 佐野倫生(1990年 浜松医科大学卒)**

医師としての業務は、「診療」、「研究」、「教育」の3本の柱があります。地域中核病院では、診療だけに特化しがちですが、「臨床研究をしっかりと行い年1回は学会での発表を行う」こと、また「初期研修医や看護師さんの勉強会」など、教育に関しても研鑽を積める環境を整えてお待ちしています。

静岡は典型的な地方都市でありながら、東京や名古屋へのアクセスが良いこと、気候風土が良く市民の気質も温厚、釣り、ゴルフ、マリンスポーツをはじめとしたレクリエーション環境が整っていること、からも公私ともに充実した研修生活がおくれることは請け合います。今後、中部地区の研修病院が一丸となって、充実した後期研修ができるよう努力していきます。



・ **静岡市立清水病院 整形外科科長 奥山 邦昌(1994年 慶應義塾大学医学部卒)**

私は1994年慶應義塾大学を卒業し慶應義塾大学整形学教室に入局しました。慶應大学病院、静岡赤十字病院、日野市立病院、伊勢慶應病院、東京都済生会中央病院を約1年ずつ研修し、卒後6年目に大学に帰室し脊椎脊髄外科医を目指し研修しました。その後は東京都立大久保病院を経て2002年からは静岡赤十字病院、2009年からは当病院で勤務しています。

病院を異動しすぎではないかと考える方がいるかもしれませんが、それは違います。病院によって経験できる疾患が大きく異なったり、同じ疾患でも治療法が異なったりします。多くの病院で勤務することで偏った考え方をなくし、より多くの疾患、より多くの治療法を経験できるようにしているのです。静岡県の専門医研修プログラムでも1年ごとに病院を異動していただきます。それによりバランスのとれた素晴らしい専門医が誕生するのです。

熱意をもって研修すれば充実した4年間になることは間違いありません。ぜひこのプログラムに参加してください。そしてぜひ当院で1年間研修してください。



・ **静岡赤十字病院 第一整形外科部長 脊椎センター長 小川 潤(1986年 慶應義塾大学医学部卒)**

私のバックボーンは40代になってから家族でスウェーデンに留学し、整形外科とは直接関係ない神経生理学の分野で2年間苦勞してきた経験です。

(<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/anzu/2003/pdf/anzu0310-11.pdf>)

また杏林大学で約10年教鞭をとり、学位指導をしてきました。教育のモットーはまず医師である前に社会人たること、そして時代の波にぶれない臨床医を育てることです。手術はできるようになるまで何度でも貴君の前立ちをします。加えて学会発表や論文作成を課し、他の病院の優しい医長さんとは対極です。それでもという肝の据わった方は、是非一度話を聞きに来てください。酒でも飲みながら貴君の将来について語り合しましょう。



・ **焼津市立総合病院 整形外科 友山 眞(1979年 東京大学医学部卒)**

1979年に東大を卒業し、整形外科入局。東大病院、旭中央病院、都立墨東病院、都立駒込病院、榛原総合病院などで研修の後、1988年より焼津市立総合病院で働いております。大学にいたころは、腰痛診に所属し、主に腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などの治療・研究を行っていました。しかし最近是一般外傷や変性疾患、骨粗鬆症などの日常診療に忙殺されています。

当院は地域の中核病院であり、一般整形外科・外傷・スポーツ外傷を中心に診療を行っており、整形外科研修病院として皆さんの役に立つことができていると思っています。



• **藤枝市立総合病院 整形外科 科長 阿部雅志(1997年 浜松医科大学卒)**

浜松医科大学整形外科に入局。静岡県内の病院で研修をおこない、一度、大学病院に戻り、大学院に入学。スポーツ障害外傷、膝関節、肩関節を専門にしながら関節軟骨の再生に関する研究を行いました。当時の医局でみていたプロサッカーチームのチームドクターも経験しました。

現在は関節鏡視下手術、人工関節手術等を中心に仕事をしています。私もまだ若いですが、同じ目線でいっしょに考えて仕事ができたらいいと思います。

